



エンジンマネージメントコンピューターをチューニング(再調整)することで、エンジンパワーやスロットルレスポンスを向上させるDMEチューン。静岡市のショップ「27Motorsports」との連携でサービスを提供。燃費向上にも効果あり!



乗り心地をよくしたい、ホイールを変えたからサスも見直したい。そんなニーズに応えるべく、メーカー「Aragosta」と提携してオリジナルサスを開発。用途に応じた3タイプを取り揃えている。



ミニ専門店らしく専用パーツ類が並ぶ店内。上で紹介したサスペンションも含め、ミニユーザーなら新旧問わず興味深いものが揃う。



ミニ関係のイベントやレースへ積極的に参加しており、それで得たノウハウをショップで活かす。年間シリーズチャンピオンなど輝かしい記録も多い。



Garage PitHouse ガレージピットハウス

静岡県焼津市三和1198-1
TEL / 054-623-3298
営業時間 / 10:00~19:00
定休日 / 水曜日
イベント・レース開催日
www.pithouse.co.jp



有限会社ピットハウス
代表取締役
永井 隆太郎さん
ある市販車のテストドライバーを務めていたころからミニを愛用。その後業ミニショップに10年勤めた後、1992年にピットハウスとして独立。現在に至る。もともとはクラシックミニの専門店だったが、1999年ロンドンで行われたミニ40周年記念の際、ニューMINIのモックを見て以降、新旧両方のミニ専門店として展開。

ミニの専門店というのは、クルマそのものの人気もあって探してみると多いもの。だが、そのほとんどがクラシック・ミニとニュー・ミニを分けている。開発の年が違うのだから当然、同じブランド名を名乗っているが、クルマとしては別物である。

今回ご紹介するピットハウスは、クラシック・ミニもニュー・ミニも、併せて専門店として活動している。もともとはクラシック・ミニの専門店であったが、海外で発売前のニュー・ミニ(「ザインモック」)を見た際に興味を感じ、いち早く並行輸入で仕入れたところ大きな反響を得られた。頑なにクラシックを崇めるのではなく、MINIというブランドを受け継いだニュー・ミニに、ミニ好きとして柔軟に対応した格好だ。

もちろんクラシック・ミニの専門店としても活動を続け、今ではクラシックからニューへの乗り換えなども含め、幅広く頼りにされている。

代表の永井氏から諸々の話を聴くに、ピットハウスは「プロII 専門家としての誇り」と「研究熱心」が相乗している感覚を受けた。

クラシック・ミニで例を挙げてみよう。歴史が長く、情熱的なファンが多いクラシック・ミニは、レースをはじめとしたイベントが数多く開催されている。ピットハウスではユーザーと一緒にこれらへ積極的に参戦し、直近の「MATCHBO X JAPAN CUP」では耐久レースの1300ノーマルクラスで優勝(2連覇)、さらに年間シリーズチャンピオンを勝ち取っている。詳細はホームページから見ることができ、検討を重ねてセッティングしたマシンが的中しての勝利だ。

レースへの参戦というのは極めて興味性が高いもののように感じるかも知れないが、耐久レースで結果を出すためには「速い」「扱いやすい」「壊れない」の3拍子が必要となる。求められるレベルの違いはあれ

「お客さんの負担を減らす。それが専門店の役割」

ど、この3拍子は街乗りしにくいユーザーにとっても求められる要素だ。つまりピットハウスは、そのノウハウでトップクラスなのである。

ニュー・ミニに関しても同様だ。最近では左で紹介しているオリジナルサスペンションの開発を行い、そのテストとお披露目を兼ねてレースイベントに参加。こちらはデビュー戦で総合2位と順調な滑り出しを記録した。なお開発したサスはスポーティ走行だけでなく、快適性も含んで検討を重ねている。

「(新旧問わず)ミニを選んでくれる人は、単なる移動手段が欲しい、だけじゃない人なんだよね」と氏は話す。その「だけじゃない」に求められる部分は人それぞれだが、ピットハウスは専門店として、様々なニーズに応えられるように努める。

「お客さんの負担を減らす。それが専門店の役割」という氏の一言に、ピットハウスが多くのユーザーに愛される理由の端を感じられた。

Vol.32

Garage PitHouse

クラシック・ミニもニュー・ミニも。MINIというクルマに関する豊富なノウハウを持つ専門店、ピットハウス。日常的なアシにしたいというニーズから、レースで大活躍したい野望まで、幅広く支えるプロの目と腕を拝見した。

取材・文・加藤山往 (Shuffle)



古いモノを愛し、新しきを追求する 専門店のあり方を追求する匠の店